

1. 評価報告概要表

作成日 2009年11月11日

【評価実施概要】

事業所番号	1070600307
法人名	有限会社 深英会
事業所名	グループホームサンフラワー
所在地	沼田市新町452-1 (電話) 0278-60-1165

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年11月11日

【情報提供票より】(平成21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年3月1日		
ユニット数	5 ユニット	利用定員数計	44 人
職員数	32 人	常勤	26人, 非常勤 6人, 常勤換算 24.625人

(2) 建物概要

建物構造	木造及び鉄骨造り		
	2階建ての	1階	～ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	40,200 円	その他の経費(月額)	光熱水費 40円/日	
敷金	有(100,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
1日700円				

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	42名	男性	13名	女性	29名
要介護1	9名	要介護2	13名		
要介護3	10名	要介護4	8名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 84.92歳	最低	64歳	最高	101歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	沼田クリニック、ほたか病院、角田外科等
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

沼田市街地より離れた、ホーム前には片品川が流れる自然が豊かな場所に立地し、白壁の2階建の2階に5ユニットの入居者44人が暮らすホームである。入居者それぞれの生活スタイルを大切に、天気の良い日には近隣を散歩したり、季節には花見や林檎狩りに出かけたり、買い物に車で出かけたり、各ユニット毎に週一回のイベントを計画し気晴らしや楽しみを支援している。ホームの運営者及び全職員は向上心を持ち、ホーム内の勉強会では理念や認知症高齢者介護等のテーマで学び合い、介護福祉士やヘルパー等の資格取得希望の職員には便宜が図られ、ユニット毎に目標を立てて実践に取り組んでいる。理念に違わぬホームを目指して、熱意をもって介護に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題から、個人情報の記録類が見えないように蓋付きボックスに保管している。また、玄関の鍵をかけないケアの実践では昼間の2時間非常口のドアを開けて見守りに取り組んでいる。引き続き、鍵をかけないケアの検討をしていく考えである。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者、全職員は評価の意義を理解し、各ユニットで評価項目を分担して評価や話し合いをしてユニットリーダーがまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回運営推進会議が開催されており、入居状況、行事運営、地域の情報、災害対策などについて議題に挙げ話し合いが行われている。市担当者から会議の案内状及び会議録の様式作成、地域の方への会議参加呼びかけ、グループホーム大会での事例発表等の助言を受けている。今後、自己評価及び外部評価結果についての話し合いを期待する。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に意見箱の設置はあるが、面会時に要望や意見等が直接家族から出されることが多い。また意見や要望が言いやすいよう相談室が設置されている。出された意見等は会議で検討され運営に活用されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩では近隣の方と挨拶を交わっている。回覧板や運営推進会議で地域の情報を得てどんど焼きや納涼祭に出向いたり、小学校の運動会や高校の文化祭に招待され参加したり、中学生の体験学習や演劇等のボランティアの受け入れを行っている。また、バーベキュー大会では近隣の方を招待して地域の方との交流を深めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成14年開設時に全職員で理念を検討し、明るく、太陽のような暖かい眼差しを持ち高齢者を見守るイメージから「気付く優しさ、悔いなき行動、笑い合える信頼関係、みんなで築こうサンフラワー」という独自の理念をつくりあげている。	○	グループホームの基本方針「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」について、解りやすい言葉で表現された理念を全職員で作らあげよう期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は朝礼時に唱和し、随所に掲示している。勉強会でホーム長の指導により理念について職員は学び合っている。理念にある自己表現が出来ない入居者への気づきやこうすれば良かったのにと悔いなき介護実現に、日々取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域に在任する職員は自治会役員をしている。入居者は天気の良い日には散歩に出かけ近隣の方と挨拶を交わしたり、地域の納涼祭やどんど焼きに出向いたり、小学校の運動会や高校の文化祭に招待されている。また、中学生の体験学習の受け入れ、近隣の方のホームのバーベキュー大会への招待、クリスマスの歌や劇のボランティアの訪問等、地域との交流を深めている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、全職員は評価の意義を理解し、職員と共に評価項目を分担し、会議を行い各ユニット毎にリーダーがまとめている。改善項目ではホール兼食堂の端に置かれる介護記録は蓋付きのボックスに変更し、玄関の鍵を掛けないケアでは昼間の2時間非常口のドアを開ける等引き続き検討している。	○	外部評価の改善項目には改善シートを活用し、全職員で話し合い課題を共有して取り組まれることを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催され、入居状況、行事運営、地域の情報等を議題に意見交換がなされている。市の担当者から、会議の案内状や会議録の様式作成、地域の方への会議参加の呼びかけ、連絡協議会の大会の事例発表等の助言を受けている。自己評価及び外部評価結果については、議題に挙げて話し合われていない。	○	自己評価及び外部評価結果について運営推進会議の議題に挙げて話し合い、意見等を参考にしてサービスに活かすよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と情報交換し、スプリンクラーの設置費補助金申請や入居者の希望により介護機器借用の問い合わせ等を、市の担当者と相談しながら取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用請求書に、食事や健康状態等が書かれたケース記録のコピーや各個人のホームの生活ぶりをお便りに書き、行事やホームの生活等の写真を同封して、各家庭に報告している。急ぎの場合は電話で報告をしている。金銭管理は通帳を預かり、受診の支払い等領収書及び通帳コピーを渡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置があり、苦情相談受付窓口は重要事項説明書に明記しており、ユニット毎に掲示されている。家族から意見や要望等が言いやすいように全ユニットの方が利用できる相談室を設置し、寄せられた意見や要望は会議で検討されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を最小限に抑えるよう認知症理解の為の説明を詳細に行い、採用をしている。また職員の希望休が取り易いよう配慮している。入職者には入居者のアセスメント情報を十分に理解してもらい、リーダーのマンツーマンによる指導を行い、業務に早くなれてもらうようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は段階に応じて職員育成の為の研修計画を立て、職員は県主催の実践、リーダー、管理者研修を受講し復命書を提出、会議の折に報告し資料などは職員に回覧している。また、介護福祉士やヘルパー等の資格取得希望の職員には、勤務調整や資料等提供し資格取得を奨励している。ホーム内では年3回勉強会を開催し、新人はユニットリーダーに指導されて働きながらトレーニングしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、大会に参加したり、ホーム長及び管理者は支部の会に参加し同業者との交流はしているけれども、職員は北毛支部の主催する研修会で他ホームとの相互訪問研修はしていない。	○	地域密着型サービス連絡協議会の支部が行う各種研修会に参加し、職員の相互訪問等よりサービスの質向上に取り組まれるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があると家族や本人に見学してもらい、雰囲気を知って頂いている。管理者及びケアマネージャーは、本人の自宅に伺い、生活状況や性格等について家族から情報得ている。入居して1～2週間は落ち着かない状況なので、家族の面会協力や外泊を行う等により馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者を人生の先輩と考え、戦争体験談、お手玉の歌や小学唱歌、蒔の皮むきや料理の味付け、季節料理の作り方、うどん打ち等昔の生活や文化について教わっている。また、歌が不得意の職員と一緒に歌を歌えるようになったり、塗り絵等を一緒に楽しんでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉で思いを表現できない入居者の方のしぐさや表情等から、希望や意向を把握するように努め、困難な場合は家族から話を聞いたり、ミニ会議で検討をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らせるように、介護担当職員は毎月のモニタリングやケアチェック表、サービス評価表等でアセスメントし、家族や本人の希望、要望を聞き、かかりつけ医からの情報等を基に、ケアプラン会議で話し合い介護プランを作成している。介護計画について家族に説明同意を得て、ケアが行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期6ヶ月、短期3ヶ月の介護目標を立て、介護計画は3ヶ月、6ヶ月の期間の見直しの他に、毎月のケアプラン会議及びチームケア会議で話し合い、心身の状態の変化や本人、家族と話し合いを行なう等によって随時見直されて新しい介護計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診やリハビリの通院等に同行したり、本人が好む美容院へ車で送迎を行ったり、個人的な買い物に付き添ったり、入院した際は見舞いに行く等柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により以前からのかかりつけ医や協力医をかかりつけ医とする方もいる。家族が受診に同行出来ない時には、職員が同行支援している。インフルエンザの予防接種は、協力医がホームに見えて実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について、入居契約時に説明をしている。家族の希望により経口的に食事が食べられなくなりながらも、医療と連携し可能な限りホームでの生活を支援したケースがある。家族、医師、ホーム側で繰り返し話し合いながら方針を決めているが、医療行為を伴う場合は家族の了解を得て入院対応となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りを大切にして、名前には「さん」を付けて声かけている。契約書にプライバシー保護、秘密保持が明記され、雇用契約書にも個人情報の秘密保持の遵守を誓約している。記録類等は目に触れないよう蓋付きボックスを使用し、取り扱いに注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や車でドライブ等を希望しない方にはホームで休んでもらったり、食事やおやつの時間等を強要することなく時間をずらして食べて頂いたり、入居者の希望を優先し一人ひとりのペースを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の力を活かして、野菜の下拵えや料理の味付け、食器拭き等の後片づけを職員と一緒にしている。ホーム庭先の菜園で収穫した野菜を献立に加え、職員と入居者がテーブルを囲み会話しながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則週2回及び日曜日には自立している方のジャグジー浴となっているが、希望にそって対応している。入浴を拒否する方には声かけやタイミングに合わせたり、清拭や足浴で対応している。入浴が楽しめるように季節の柚子湯及び林檎湯、入浴剤使用の湯を行い、会話をしながらの入浴支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、裁縫の出来る方はボタン付けや繕い物、食事の準備や後片付け、うどん打ち、清掃等の出来る事をして頂き、感謝の言葉を伝えている。塗り絵、唱歌・童謡、電子ピアノや大正琴の演奏、ゲーム等のレクリエーション気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は近隣を散歩したり、ホームの外でティータイムや外気浴を楽しんでいる。また、個人の使用する薬やお菓子等の買い物や林檎狩り・花見等ドライブに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	訪問者は1階のインターホンで来訪を告げ、2階の電磁式扉を開けてもらっている。外部評価を受けて職員で話し合い、昼間の2時間開放して職員は見守りを行っている。今後も、鍵をかけないケアを検討していきたいとしている。	○	ホーム長及び管理者は日中鍵をかけることの弊害を職員と話し合い、入居者の安全を考えながら引き続き鍵をかけないケアの検討を期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対応、防止のマニュアルが作成され、緊急連絡網が全職員に配布されている。消防署の協力の下年4回、自主的に2回、計6回の防災訓練を昼、夜間を想定して行い、避難経路及び場所の確認、消火法や救急救命等について指導を受けている。近隣の方及び地域の防火協力委員にも災害時の協力を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量はケアチェック表、介護記録に記載され、職員は情報を共有している。栄養士はケアハウスの献立を参考に入居者の希望を取り入れて、約1600kカロリーの献立を作成している。水分量は1200～1500mlを目安に支援している。体調により粥食やミキサー食、便秘症の方には牛乳や繊維の多い食材を使い、納豆の嫌いな方には卵に替える等一人ひとりに応じた食事支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール兼食堂の天窓には光を調節する為のよしずが掛けられ、壁には紅葉した楓の切り絵により季節感を演出し、カレンダーが貼られ、採光やテレビの音量にも職員が注意を払っている。中央にテーブルが置かれ食事や皆が集う場所になっており、またお茶会等をする畳コーナーもある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は作り付けの収納部分や床暖房が設備され、冷蔵庫やテレビ等使い慣れた家具等が持ち込まれ、カレンダー、家族の写真、百歳の慶祝状や賞状が壁に掛けられている。湯沸しのポットが置かれお茶をいれて楽しむ方がおり、心地よく過ごせる環境が整っている。		